

大塚倉庫、医薬品共通プラットフォーム^{※1}センターの完成

BCP^{※2}対応拠点の稼働により医薬品のより強固な安定供給体制構築へ

大塚グループの医薬品等の物流を担う大塚倉庫株式会社（大阪市港区、代表取締役社長 濱長 一彦、以下「大塚倉庫」）は、神戸市北区に医薬品専用物流センター「西日本ロジスティクスセンター」を10月1日に無事竣工いたしましたのでお知らせいたします。

東日本大震災以降、各企業においてBCP対策が本格化する中、国内医薬品物量シェア4分の1^{※3}を占める物流企業の使命として、当社は医薬品の安定供給体制の構築を進めてまいりました。

新センターは、①地震リスクの低い立地（今後30年間で震度6以上の地震発生確率6%以下^{※4}）、②自家発電を配備（72時間連続稼働可能）、③免震構造等、BCP拠点としての優れた特徴を有しています。また、全館セキュリティー管理、自動温度管理システム、防虫対策等、医薬品品質向上のための設備も兼ね備えています。

竣工式典で当社代表取締役社長 濱長一彦は次のように述べています。「この新倉庫が災害時に必要とされる医薬品の安定供給を可能にし、患者さんの治療に貢献できるものと確信しています。」

大塚倉庫は、大塚グループの企業理念であります'Otsuka-people creating new products for better health worldwide'のもと、人々のより豊かで健康な暮らしに貢献する医薬品のメーカー物流会社として、当センターの竣工・稼働を機に、今後も引き続き共通プラットフォーム化を提唱し、更にメーカーの物流共同化を進め、物流の効率化のみならず、社会に貢献できるプラットフォームを進めてまいります。



■西日本ロジスティクスセンター概要

所在地	神戸市北区赤松台1丁目2番
地域・地区	準工業地域
敷地面積	40,767.39㎡
規模・構造	地上4階 柱RC/梁S造 基礎免震構造
建築面積	8,547.49㎡
延床面積	31,175.722㎡
着工・竣工	2014.9月着工 2015.7月竣工
トラックバース	両面バース(7台+2台)・ドッグレベラー1基
建物構成	1~3F:輸液 4F:治療薬 ピッキング室
倉庫部分 有効高さ・積載荷重	4.7M 2t/㎡
EV・垂直搬送機	荷物用EV:4.5t 1基 垂直搬送機:2t 3基
駐車場	トラック:42台(内コンテナ車5台) 乗用:40台
設備仕様	空調設備:中圧ガス空調(管理温度:0℃~30℃) 電気設備:LED照明 非常用発電機:72時間対応

※1:大塚倉庫が展開する、食品・飲料・医薬品・日用品の共同物流

※2:BCP(business continuity plan)=事業継続計画

※3:国内大手医薬品卸売企業メディセオ社の全国在庫集計より算出(2015年6月5日時点;ケース換算、OTC及び医療機器等は省く)

※4:出典:地震調査研究推進本部地震調査委員会発表「全国地震動予測地図2014年版」

以上